

	ご意見	対応状況
1	【14ページ】4(1)自己認識 自分が好きかどうかの問いに「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」で、15歳から19歳の割合が最も高くなった後、どんどん減っているということになるのか。どのように、このグラフを受け取ればいいかが、この2行だけでは難しいと思う。上の層に行くほどどうい変化があるのかを少し加筆してもいいかと思う。	自己認識について、15歳から19歳の割合が最も高くなることと、年齢が高くなるにつれ「今の自分が好きだ」と思う割合が下がる傾向にあることを追記しました。
2	【14ページ】4(2)社会認識 「こどもの意見を聞いてもらえている」、「大事にしてくれている」と感じているこどもが多くいると書いてあるが、一方で、わからないも結構いる。これについて少し触れた方がいいかと思う。	わからないと答えたこどもも一定数いたことを追記しました。
3	【15ページ】5雇用・労働 30代、40代で長時間労働をしているとあるが、こども関連として、この言及で良いのかどうか不明。	30代、40代の前に「子育て世代にあたる」を追記しました。
4	【21ページ】7(1)男性の育児休業について、 取得率が上がっているのは確かだが、男性の取得日数が短いことが問題になるので、それは加筆も必要かと感じた。	(全国)男女別、取得期間別育児休業後復職者割合のグラフを追加し、育児休業取得期間は、女性に比べて男性の方が短い旨追記しました。
5	【2ページ】【36ページ】 「パーマナンスー保障」や、「民間フォスタリング機関」など、注釈を作られるといいと思う。	注釈を追記しました。
6	【40ページ】流産・死産を経験された方への支援 取り組みが手厚いところは、結構文言が書いてあるが、1行で終わっている箇所がある。流産死産を経験された方への支援は、もう少し、読んだ方が納得されるような、充実を図って、その不安を取り除きます等、少し寄り添った形で、書き込みするといったのでは。	「相談者の気持ちに寄り添った支援を行います」を追記しました。
7	【52ページ】結婚を希望する方への支援 結婚意思のある方に尋ねた独身でいる理由がネットリサーチ調査で掲載されているが、「経済的に余裕がないから」というのが最大で、ここにどうアプローチするかということも併せて、非常に難しい課題だとは思いますが、検討いただけるといい。	就労支援や所得向上のための取組を推進するとともに、結婚後になりますが、新婚世帯への新生活スタートさせるための費用(住宅費用や引越し費用)を補助する市町村の取組を引続き支援していきます。
8	【目標指標】県内のこども食堂の数 本来であればこども食堂は少ない方が望ましい状態だと思っている。この件数を追いかけるというよりは、困っている方、例えば、貧困家庭にカウントされるようなお子さんの数に対して、何パーセントぐらい充足できた等、もう一歩踏み込んだ指標になっていくといい。	こども食堂は、困難を抱えたこどもの食事や生活の支援を目的としているほか、最近では、貧困に限らず、地域のようなこどもの居場所としての役割を担っております。そのような中で、こども食堂が貧困のこどもが行くところだと見られると、本来支援が必要なこどもが、周囲の目を気にして参加することを避けてしまうことが考えられます。このため、必ずしも貧困に限らず、こどもの居場所になり得る場所のひとつとして、こども食堂の数を増やすことで、困難を抱えたこどもを含めたすべてのこどもが気軽にこども食堂へ足を運ぶことができる環境をつくっていくことが重要と考えておりますので、ご理解いただきますよう、お願いいたします。
9	【目標指標】 指標の現状で、これから追っていく数字がどこから持ってきているかというのが記載されていた方が納得感があると思う。数字の出典もどこか、記載があるといい。	目標指標一覧に括弧書きで調査名等を追記しました。また、補足資料に「指標の示すもの」の欄を追加しました。
10	【全体】 中学生、高校生が読み込んでくれるものを目指した方がいいと思うし、もちろんシニアの方も片仮名の文字が増えてきて読みにくいという話もあるので、ユニバーサルにするためにもかなり注釈を入れていった方がいいと思う。	分かりづらい文言やカタカナ語を中心に注釈を追記しました。

※【ページ数】は、今回の審議会資料として配布している「こども計画(案)」のページで示しています。